

会議名	令和８年度第１回岸和田市スマートシティ推進協議会
実施日時	令和８年７月２９日（水）１０：００～１１：４５
場所	岸和田市役所 新館４階 第１委員会室
参加者	【出席者】 岸和田市 佐野市長 岸和田市総合政策部 高井部長 大阪公立大学 阿多教授 (株)地域創生 Co デザイン研究所 浪江様、菅村様 (株)アグレックス 安藤様、神前様 TISI(株) 幡谷様 【事務局】 企画課 中井課長、林担当主幹、紀岡主任 有限責任監査法人トーマツ大阪事務所 松本、鳥山、森田（記） 【傍聴】 ３名
使用資料	・岸和田市スマートシティ推進協議会 第１回推進協議会 配布資料

１ 開会挨拶・趣旨説明

【岸和田市佐野市長】

- 本日は、ご多忙のなか、令和８年度第１回「岸和田市スマートシティ推進協議会」に参加いただき感謝申し上げます。本協議会は、本市におけるスマートシティの取組を推進する産学官連携組織として設置した。スマートシティとは、まさに未来を見据えた都市のあり方を考えることであり、ICT や先端技術を活用し、市民の皆さまの生活の利便性・快適性を向上させ、地域全体が持続可能な発展を実現することを目指す。参画企業様には、WG 活動などスマートシティの取組にお力添えいただき感謝申し上げます。本日は、その取組の結果や成果などを聞くことを楽しみにしている。
- また、大阪公立大学阿多先生には、平素から本市スマートシティ推進にかかるご助言等をいただき感謝申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いしたい。
- 事務局より推進協議会の趣旨・目的について説明。
 - 本協議会は、岸和田市スマートシティ構想で掲げる「住みよい・育てよい・心地よい」まちの実現をめざし、産学官の連携・協働によってスマートシティに係る取組・施策を推進する場である。市民目線での利便性や幸福度の向上を重視し、防災・観光・健康・教育・データ連携等の分野において実証及びプロジェクトを通じた具体的な取組を展開するものである。デジタル技術やデータの利活用を通じて地域の課題だけでなく魅力も見える化・共有し、行政と民間事業者さらには事業者間の連携・共創を促すことによる持続的かつ横断的なスマートシティの形成をめざすものである。
 - また、岸和田市におけるスマートシティ構想の推進を図るため、民間企業の力を地域課題の

解決につなげ、市民の生活利便性や豊かさの向上を図ること、そして、産学官が連携してデータや ICT の新たな技術を活用しながら、分野横断的に岸和田市における諸課題の解決等に取り組むことにより、岸和田市の魅力を高め、持続可能な都市として機能するスマートシティの実現を目的としている。

2 令和 8 年度の協議会スケジュール及び進め方について

■ 事務局より令和 8 年度の活動スケジュールについて説明。

- 本推進協議会は、令和 7 年 3 月に発足し、本日は令和 8 年度第 1 回の総会となる。本日の協議会に至るまで、運営委員会を開催し、今年度の実証実験の検討状況の共有を行っている。本日の協議会では、「協議会設立の趣旨や目的」を改めて共有するとともに、令和 8 年度に取り組む実証実験の内容や検討状況をご確認いただく。令和 9 年 1 月に開催予定の第 2 回推進協議会では、今年度の実証実験の報告を行う予定である。令和 9 年 3 月は、年次報告を書面にて開催する予定である。なお、運営委員会での議論は、庁内組織の推進委員会と情報共有しながら、進めていく。
- 各 WG・部会のスケジュールについて、防災 WG は、令和 8 年度は活動を休止している。防災分野の新たな課題や実証につながる論点が確認された場合に活動再開を検討することとし、9 月から 11 月頃をめどに状況確認を行う予定である。観光 WG およびデータ連携・利活用 WG は、参画事業者を中心に、昨年度までの取り組みを踏まえた分析や実証効果の整理を進めている。健康 WG は、昨年度の実証結果や教育部会からの助言を踏まえ、課題・対象者・サービスイメージを改めて整理し、参画事業者の公募に向けた準備を進めているところである。教育部会は、大規模な公募実証を前提とせず、市単独で実証可能なミニマムな実証を通じて、教育分野で継続して取り組むべき領域を整理している。実証や今後の時期については、各 WG／部会の検討状況に応じて調整する。

3 規約の改定について

■ 事務局より規約の改定について説明。

- 本推進協議会、運営委員会会員の株式会社インテック様が令和 8 年 7 月 1 日より TISI 株式会社に商号を変更されたことに伴う規約の改訂である。改訂後の規約の施行は本日付の 7 月 29 日とする。

4 各 WG・部会の活動状況報告

【観光 WG（地域創生 Co デザイン研究所）】

- 第 1 回では、昨年度行った実証施策の振り返りを行いながら、昨年度できたこと・できなかったことの共通認識を図った上で、今年度どうしていくかについて発散的な意見交換を行った。第 2 回では、昨年度の振り返りを踏まえた今年度の実証案について、三つの案を提示した上で、どの方向性で進めていくか等の議論を行った。次回の第 3 回では、今年度の実証の設計方向性を具体的に進

めていく段階である。

- 昨年度は、スタンプラリーを用いた周遊による参加者の参加前後の変化の把握・分析を行った。参加前は岸和田市の魅力をあまり知らない方が多い一方、参加することで満足度が上がり、他の方にも勧めたいという意見が得られた。実際に岸和田市に来て観光すると満足度が高い一方で、それをどのように発信していくかが課題として見えてきたと認識している。
- 今年度の課題について、昨年度は効果的な実証を実施できた一方で、実証実施により明らかになった要素も多々存在している。「昨年度取れた（取得・検証できた）」、「取れていない（取得・検証できていない）」という要素を明確化し、今年度テーマの選択に繋げる。昨年度は、行動ログ（周遊）、アンケート（認知・興味・評価の変化）を取得できたが、①発信反応（どの情報（発信）が閲覧され、行動に繋がったか）、②消費行動（どこで何が使われたか、「普段行かない場所に行った」が発生したか）、③既存施策データの活用（今年度新要素）（商品券、黒鯛フェアなどのイベントにおけるアンケート）のデータは取得できていないので、これを今年度の伸びしろと捉えている。今年度は、不足しているデータの1つを埋める年とする方向性で検討を進めている。
- 今年度の選択肢として、案 A：note 等を活用した情報発信、案 B：消費行動の検証、案 C：既存データを活用した分析の3案の検討を進め、意見交換の結果、今年度はC案「既存データを活用した分析」を次年度施策につなげるための検討を中心に進める方向とした。併せて、A案「note 等を活用した情報発信」についても、生成 AI 検索や認知経路の変化を捉える観点から、活用可能性について継続検討する。案 B について、今年度下期に地域ポイント制度の運用が始まることを踏まえて、次年度以降の検討を予定している。
- 現時点における到達点について、黒鯛フェア等を題材に、既存データ・今年度アンケート・庁内各課の取組を接続し、イベント効果や来訪者行動を分析する方向性を共有した。観光 WG は多数のステークホルダーが参画しているので、複数の担当課の方に横断的に波及するという観点を意識している。観光課・農林水産課・産業政策課・広報広聴課・交通まちづくり課の取組と接続しながら、観光分野に閉じない活用可能性も確認する。イベント毎にアンケート項目が異なると経年比較や横断分析が難しくなるため、共通の取得項目や分析の型について整理する必要性を確認した。黒鯛フェアのアンケート分析例として、参加者の属性やイベントを認知した理由などを掛け合わせて分析し、市外の方への効果的な波及方法などにつなげていくことを想定している。
- 主な論点・課題について、観光 WG で取り組む意義を、原課業務の代替ではなく、部局横断で活用できるデータ分析・効果検証モデルの構築として明確化する必要がある。黒鯛フェア等の個別イベント分析を、次年度以降の周遊促進、地域ポイント、情報発信、産業振興、交通施策等へどう接続するか具体化する必要があり、また note 等を活用する場合は運用主体・発信内容・庁内負荷・効果測定方法等を整理する必要がある。
- 今後の進め方について、C案を軸に、対象イベント、分析対象データ、アンケート項目、効果検証方法、次年度施策への接続案を具体化する。A案については、note の活用主体や掲載内容、認知経路・生成 AI 経由の流入把握等の検証可能性について整理する。今年度の検討成果を、個別イベントの分析結果に留めず、他イベント・他分野にも応用可能な分析の型（またはその取組

の起点)として整理する。

【データ連携・利活用 WG (アグレックス)】

- データ連携・利活用 WG では、市民からの電話問い合わせの録音データをテキスト化し、問い合わせ傾向の把握、FAQ 整備、将来的な AI 活用につなげようとしている。
- 現在の市役所の課題として、電話問い合わせが過度に集中、通常業務との並行対応で職員の業務が逼迫、問い合わせが体系的に整理されていないなどがある。そのため、問い合わせを体系的に把握・FAQ やチャットボットに反映、市民が「電話しなくても答えにたどり着ける」状態などを目指す。
- 本年度は、これらの課題を解決し、誰もが必要な情報にたどり着ける市役所を実現するため、① FAQ 自動生成の基盤づくり(質問候補抽出)、② AI 活用(VextMiner 代替)の本格検証、③ 感情分析による住民ニーズの可視化の3つのテーマに重点的に取り組む。
- 実証実験の進捗状況について、分析工程は概ね完了し、抽出結果を踏まえた FAQ 候補評価フェーズへ移行している。分析対象は約 4,300 会話(約 8.4 万行の音声テキストデータ)となっており、質問候補の選定は完了している。候補抽出段階から、実運用を見据えて検討している。
- 中間成果・到達点について、AI では年金・母子手当・介護保険等の個別質問を抽出しており、多様な表現・新規質問を含む候補を生成できている。合計 115 件の質問候補を抽出した。Vext では問い合わせ傾向を把握している。そのため、AI で個別質問、Vext で全体傾向を可視化する組み合わせがよいのではないかと考えている。今後は、抽出結果を人が評価し、実運用に使える FAQ へ整える。
- 今後の進め方について、FAQ 候補の評価・回答作成、職員ヒアリングによる現場ニーズの把握、FAQ 活用方法整理を行ったうえで、最終報告へ進める。協議会全体で整理したい横断テーマとして、他 WG との連携、AI 活用方針の整理、AI チャットボット展開の検討を考えている。
- FAQ・AI 活用が複数分野にまたがるため、①他 WG との連携、②AI 活用方針(特に感情分析・FAQ 自動生成)の大枠整理、③中長期ロードマップへの位置づけについて、協議会としてご支援いただきたいと考えている。①については、FAQ・AI 活用は複数分野に関わる横断テーマであるため、他 WG とも共通課題を共有し、分野を超えた連携のあり方について、協議会の皆さまと一緒に協議させていただきたい。②については、令和 8 年度にどこまで AI 活用(感情分析・FAQ 生成など)を検証対象とするか、また活用範囲やチェック体制・運用ルールについて、WG を通じて協議会の皆さまと一緒に整理していきたい。③については、令和 8 年度の VextMiner + AI 検証結果を踏まえ、令和 9 年度以降の AI チャットボットや音声窓口の導入方向性に加え、将来的な他市との連携や広域展開の可能性についても、協議会や WG を通じて一緒に検討していきたい。

【健康 WG (事務局)】

- 健康 WG は、新しいアプリやデジタルサービスを導入する(または本格的な導入に繋げようと尽力することではなく、職員が既に実施している健康・食育・子育て・教育関連の事業や計画に反映で

きる知見を、スマートシティの枠組みを活用して、部門横断で検証することを目的としている。

- 今年度は、昨年度参画事業者より実証辞退の意向が提示され、今後は同社にサポート会員として参画いただく方向を確認した。一方、昨年度実証を踏まえ、これまでのテーマ自体には意義があると考えているため、朝食摂取に限らず、睡眠、スマホ利用、生活リズム等を含む生活習慣全般の改善をテーマとして捉える方向で進める。これまでに健康 WG と教育部会の合同協議を実施し、学校現場における既存取組や実施上の制約等をテーマに意見交換を実施し助言を受けた。子どもの生活習慣は学校だけでなく、保護者の意識や家庭環境の影響が大きいことから、学校での新規実施に限定せず、保護者・家庭・子育て世代・市民全体への働きかけも含めて検討する必要性を確認した。
- 健康 WG のテーマ自体は、引き続き「子どもを含む生活習慣改善」として意義がある一方、小中学校を主な実施場所として新たな取組を追加する方向は、現時点では慎重に扱う必要がある。そのため、学校現場で新たなプログラムを実施することを前提にせず、既存取組等も確認しながら、健康 WG として取り組む対象、テーマ、手法を再整理する。特に、健康意識の高い家庭だけでなく、本来アプローチしたい層にどう届けるかが重要であり、保護者・家庭・子育て世代・市民全体を視野に入れた設計が必要である。
- 再公募では、生活習慣改善に資する（課題を解決する、取組を前に進めるに相応しい）サービス（デジタル・ICTを用いた取組）を求める方針で検討を進めている。具体的には、朝食摂取、睡眠、運動、気分、生活リズム等を簡易に記録できる機能を保有し、クイズやコラムなどを通じて啓発できるサービスをイメージしている。岸和田市実施の事業・計画への反映も見据え、実証結果がデータや示唆として還元されることも考慮して検討を進める。
- 今後は、①公募テーマをどの表現で整理するか、②既存取組と重複しないよう、どの事業・計画を公募資料に記載するか、③事業者に必須で求める要件と、自由提案に委ねる部分をどう分けるかを中心に協議を進め、再公募に向けた準備を進める。

【教育部会（事務局）】

- 教育部会は、単独で大きな WG を立ち上げる段階ではなく、実行可能な小さな取組を通じて、教育分野でのスマートシティ実装の方向性を見極める位置づけである。
- 今年度は、講座情報等を AI で抽出し、HTML 化（構造化）して市ホームページの検索性向上につなげるミニマム実証を進めている。その背景として、一部の講座情報が PDF やチラシ形式で掲載されているため、その形式だと検索エンジンや市ホームページ内検索で見つけにくいという課題がある。講座名、対象者、日時、申込方法等、利用者が検索したい情報を検索に表示させるため、AI で抽出・構造化できることを目指す。この取り組みは外部事業者との大規模実証ではなく、企画課、IT 推進課、（生涯学習課）等と教育部会メンバーで連携し、庁内で試行する。
- ミニマム実証で確認している観点は、①どの PDF／講座情報を対象とするか、②適切な情報整理形式（HTML、Markdown、表形式、CSV 等）は何か、③講座名、日時、場所、対象者、申込方法等を正しく抽出・構造化できるか、④市ホームページ上で表示・更新・保守しやすい形式か、

⑤生涯学習課等が無理なく確認・修正・更新できる運用か、⑥検索やサイト内導線から見つけやすくなるか、必要な情報にたどり着きやすくなるかを検証する予定である。

- 今後は、部会内で対象範囲・作業範囲を具体化し、一部講座を対象に構造化を進める。その結果を踏まえ、情報発信の改善効果、職員作業負担、継続運用上の課題等を整理する。得られた成果や作業手順（オペレーション）を庁内へ共有することで、他の講座情報や今後掲載するイベント情報への応用可能性、各課のオペレーション変化の可能性も確認したい。ミニマムな実証を通じて、教育部会として今後継続的に取り組むべき領域を整理することが、今年度の大きなテーマである。

5 意見交換ラウンドテーブル

【テーマ1：これまでのWG活動の成果と今年度の発展方向】

- （阿多教授）今年度の成果を「実証結果」ではなく「型」「手順」「判断材料」として残すなら何か。また、WGにおける個別課題や成果、進め方、評価方法などをどのように標準化・共通化し、今後新たに組成するWGに引き継いでいくのが望ましいか。
- （地域創生 Co デザイン研究所）観光WGでは、標準化の観点から、アンケート分析の「型」を作ることが成果として残せるのではないかと考えている。現状では、アンケート項目が年によって異なっていたり、イベントごとに内容が異なっていたりする状況である。そのため、イベントごとの標準的なアンケート項目を整理・作成し、イベント横断的に分析できる状態を目指している。
- （阿多教授）一般的に、アンケートを1つ作成するのに、どの程度の工数がかかるのか。
- （地域創生 Co デザイン研究所）観光WGにおけるアンケート作成は、これから具体的に進めていく予定である。また、WG委員の意見についてもヒアリングし、集約していくことを予定しているため、一定の工数がかかるものと見込んでいる。
- （阿多教授）これまでの経験から、アンケート項目の作成にはかなり工数がかかるという認識である。各課がそれぞれ個別に作成していると、全体として相当な工数を要することになるため、その省力化は課題である。
- （アグレックス）今回の実証では、短期間の問い合わせデータを対象として分析しており、その程度のデータ量であっても、FAQの作成自体は可能であると考えている。一方で、FAQとして庁内で活用するためには、庁内での確認や内容精査に相応の工数がかかると見込まれるため、最終的に庁内職員の負荷軽減につながるかどうかについては、今後検証が必要である。また、庁内職員向けの生成AIツールを構築できれば、職員の負荷軽減やミスの減少にもつながる可能性があると感じている。そのため、庁内職員向けの生成AIデータ基盤を構築できれば、将来的に目指す姿の実現にもつながるのではないかと考えている。
- （阿多教授）現在の取り組みについては、将来の目指す姿を見据えながら進めていくことが重要である。
- （TISI）「情報発信」という観点から整理すると、まずは岸和田市における現在の情報発信の基本構成や、その効果を評価し、現状の情報発信のレベル感を把握する必要があるのではないか。

- （阿多教授）それは重要な視点である。実証においては、参加者を集めること自体の負荷が大きく、個々の実証ごとに相当な負荷をかけて参加者を募っている事例が多い。例えば、観光 WG の黒鯛フェアの認知度についても、店内メニューを見て知った方が多かったように、周知・広報が必ずしもうまくいかないことも多い。単独のチャンネルだけで多くの方を集めるのは難しいため、複数の周知媒体を活用して参加者を集めることが必要である。あるいは、これまで何らかの実証に参加した方に対して周知する方法も考えられる。各課の取組を課内だけに閉じるのではなく、別の課も含めて、今後の取組にどのように生かしていくかという観点も重要である。
- （阿多教授）各 WG の成果を次の WG へつなげていく、という観点からも、引き続き検討を進めてもらいたい。
- （阿多教授）令和 9 年度以降の実装・予算化に向けて、今年度中に確認すべき条件は何か。
- （地域創生 Co デザイン研究所）観光 WG においては、今年度はデータ分析を行う予定であるため、今年度中に直ちに次年度予算化へ進むことは想定していない。むしろ、今年度のデータ分析の成果を、今後どのように活用していくかを検討することが重要であると考えている。
- （アグレックス）データ連携・利活用 WG では、データの FAQ 化およびその運用を検討している。発信については、FAQ 公開を想定しているが、その具体的な実施方法、例えば市ホームページで公開するのか、チャットボットを活用するのかといった点について、まだ具体化の余地がある。そのため、それらの方法論がある程度固まった段階で、予算化を検討する流れになるのではないかと認識している。まずは小さく始めて、トライ・アンド・エラーを重ねながら進めていくのがよいのではないかと。
- （阿多教授）WG 横断で進められる領域でもあると思うので、ぜひ進めていただきたい。

【テーマ 2：スマートシティにおける生成 AI の活用可能性】

- （阿多教授）生成 AI は単なる効率化ツールを超えた存在になっているため、生成 AI を情報到達性・政策検討・庁内ナレッジ化の共通基盤として捉える必要があるが、生成 AI の WG における効果的な活用可能性をどのように考えているか。また、スマートシティ推進においては、小さく始めるという観点が重要であり、生成 AI との親和性が高い。
- （地域創生 Co デザイン研究所）観光 WG では、アンケートデータ分析において、既存データの分析観点の洗い出しや示唆の抽出、アンケート項目案の作成などに生成 AI を活用できると想定している。
- （阿多教授）アンケート項目作成における生成 AI の効果的な活用については、まず、生成 AI に幅広く多くの項目を提示させたうえで、人間側が取捨選択する進め方がよいのではないかと。生成 AI は、方向性をリセットして再度一から検討し直すことも容易であるため、発想を変えたい時などにも活用できる。
- （阿多教授）生成 AI のデータベース化について、詳細に把握したい。
- （アグレックス）生成 AI のデータベース化について、TISI グループ内でも生成 AI を利用しているが、これまでは調べたい項目を何度も入力したり、画面を何度もスクロールしたりしながら、ようやく該当する内容を見つけていた。一方で、生成 AI を活用すると、知りたい情報に比較的短時間でたどり

着くことができる。庁内でも生成 AI によるデータベース化を進めることで、同様に効率的に情報にたどり着けるようになる。

- （阿多教授）データ連携のハードルは生成 AI により下がっていると考えてよい。
- （アグレックス）認識あっている。図や絵、写真など、データ連携が容易でないデータも多いが、文章データであればデータ連携は比較的容易である。
- （TISI）生成 AI は、発想力があり、自分にない視点を持っているが、正確性に課題がある。また、同じ質問であっても内容に揺らぎがあるため、行政として導入できるかどうかは難しさもあると感じている。
- （阿多教授）生成 AI が情報を補完する際には、もともとのモデルデータを活用して補完しているため、回答内容に揺らぎが発生する場合がある。単に推測で補完するのではなく、何らかのドメイン知識に基づいて補完するようなデータベースの整備が必要になるのではないかと。

【テーマ3：WGの進め方、企業から見た期待・メリット】

- （阿多教授）企業として、WG に今後どのような情報・場・意思決定支援を期待するか。岸和田市への期待があれば伺いたい。
- （地域創生 Co デザイン研究所）観光 WG のメリットとして、多くの担当課が参画している点が挙げられる。そのため、個別・単発の取組にとどまらず、他部局への波及や、部門横断的に進める視点を WG 委員が持っていることが大きな利点である。今後、アンケートの型を作成するにあたっては、岸和田市における既存イベントや取組内容、さらには十分に活用できていないデータなどについて、現場の生の声を共有いただきたい。
- （アグレックス）データ連携・利活用 WG では、IT 推進課、企画課と議論している。市民の声をひろうという観点では、様々な課の意見を収集する必要がある。IT 推進課がハブとなり、アンケート結果などを幅広く共有しているため、幅広い情報収集が可能となっている点がメリットである。「こういうことはできないか」「こうした点に困っている」といったことがあれば、幅広く共有いただくことで、全体としてよりよい取組につながると考えている。
- （TISI）WG 委員の皆さまには、「こうしたい」という要望があれば、ぜひ遠慮なくお示しいただきたい。

【モデレーター総括、次年度に向けた示唆整理】

- （阿多教授）次年度以降の WG の組成も意識しながら進めていきたい。WG の取組を起点に、その成果や考え方を庁内全体に広げていくという視点も重要である。各 WG に参画する課の皆さまには、まだ WG に参画していない課の皆さまに対しても本取組を周知いただき、さらなる参画の促進につなげてほしい。また、WG の組成・運営について、「大変そうだ」と感じさせないことも重要であるため、引き続きそのあり方を検討していきたい。

【WG・部会員からの意見】

- （産業政策課（観光 WG））スマートシティ構想を進めて3年程度が経過している。WG では

様々な意見が出ており、幅広い課の方々と意見交換できることに意義を感じている。一方で、スマートシティのゴールや目指す姿について、改めて WG 内で共通理解を持ったうえで議論を行う必要があるのではないか。

- （事務局）WG では、スマートシティ構想における課題感をブレイクダウンし、具体的な課題解決へと落とし込んで議論を進めている。そのため、現在は詳細な課題解決の議論に重点が置かれているが、その一方で、本来のゴールや目指す姿が見えにくくなる可能性もある。WG としてのゴールや目指す姿、またその実現に向けて必要な視点について、改めて整理・把握する必要があると認識した。今後の WG・部会運営の参考としたい。
- （阿多教授）個別の議論になると、大きな絵姿からずれたり、目的を見失ったりすることはよくある。新しいことにチャレンジしている自治体には元気があると感じている。様々なことに取り組んでいるおもしろい自治体であるということが、住民にも伝わるとよいと考えている。先んじて様々な取組を進め、よりよくしようとしている姿勢が、住民にも伝わるような自治体であってほしい。私は、「こういうことをやったら、みんなが楽しそうになる」という視点を見失わないようにしているので、WG 内でもその点について共通認識を持つことが重要である。こうした取組を、いかに熱意を持って進めていくかという議論ができるとよいのではないかな。

6 閉会（岸和田市総合政策部高井部長）

- 皆様、本日は、令和 8 年度第 1 回岸和田市スマートシティ推進協議会にご参加いただき感謝申し上げます。本会議を滞りなく進めることができたのも、皆様のご協力あってのことと考えている。感謝申し上げます。参画企業の皆様とともに、今後一つでも多くの取組を進めさせていただき、市民の皆様にとって実感できるものにしていきたいと考えている。
- スマートシティ実現に向けては、協議会参画事業者をはじめとする貴重なアイデアや技術を保有する事業者との連携が不可欠だと考えている。本協議会を通じて、本市との新たな連携の可能性の検討もお願いしたい。

以上